

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社 兵庫福祉保険サービス		
事業所名	松風の郷 浦富 2階		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日	令和8年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3171100104-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和8年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、一人一人の思いや生活のリズムを大切に「ゆっくり 一緒に 楽しく」を理念に安心して過ごせる環境作りに心かけている。また、海と山のバランスが良く、散歩や外出の機会を増やし地域との型と関りながら生活が出来るように支援している。利用者様に満足して頂ける支援が出来るよう職員の人材育成に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から23年目を迎えられデイサービスを併設されている2ユニット18名2階建てのグループホームです。「ゆっくり 一緒に 楽しく」の理念を基にグループホーム松風の郷・浦富独自の理念として「あせらない 同じ目線で 笑いある」を掲げられおり、認知症ケアの根本につながる支援が行われています。日々の暮らしの中に楽しみが生まれるように毎月の調理レクや地域の方から畑を借りての芋の苗植え、収穫もみなさんと一緒に行われ、生き生きとした姿が見られています。行事も季節に応じて1月には初詣に行かれたり、花見や紅葉狩、納涼祭や芋煮会、お餅つきなど数多く行われています。毎月の誕生日会も行なわれており、本人の好みの食事を用意されています。利用者・家族共に安心して、信頼関係が構築できるよう職員は日々研鑽し、支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を理念に利用者様本位に考え「慌てず・急がず・目線を合わせ同じ目線で・笑いある」を意識しながら実践している。職員間で情報を共有し身体的・精神的安定につながる声かけを行っている。	事業所の「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を理念に利用者本位に考え「あせらない・同じ目線で・笑いある」を意識しながら、具体的で分かりやすいホーム独自の理念を掲げられ、認知症ケアの根本になるような支援が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや会議に参加し地域と交流している。また、畑作業等を通じ交流をしている。	地域で行われているサロンへの参加や地域のイベントや会議に参加し地域と交流されています。また、地域の方から畑を借り、畑作業等を通じ交流をされています。今年で開設から23年を迎えられ地域の方にも認められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域サロン、地域イベントに参加し交流の中で理解や支援を地域の方に向け話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて利用者状況や活動等を報告し意見交換の中で意見や検討サービスに繋げて行くか等サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回偶数月に開催されている運営推進会議を通じて利用者の状況や活動等を報告し意見交換をされ、サービス向上に活かすよう図られています。	地域や家族の方に、実際のケアの場面を見て頂く機会を設ける事も良いと思います。例えば 昼食試食会を行い、食事中、食後の様子を観て頂くことも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議やケア会議などを通じて市町村担当者と事業所の実情や取り組み・利用者様の状況等、連絡を取り合い要望なども伝え協力関係を築くようにしている。	担当者の方と運営推進会議や困難事例も含めた事例検討を行う町のケア会議を通じて事業所の実情や取り組み・利用者様の状況や情報などを伝え、積極的に協力関係を築いておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回の身体拘束廃止の会議を行い具体的な行為について意見交換を行っている。必須の研修を受け身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	3カ月に1回の身体拘束廃止委員会を開催され、具体的な行為について意見交換が行われています。必須の研修を受け身体拘束をしない介護に取り組んでおられます。利用者から信頼される職員になるよう心掛けておられます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を受け日頃から職員間で共通理解を持ち日常の中で不適切なケアがないよう注意している。また3か月に1度高齢者虐待防止の会議を行い、職員間で言葉遣い・対応の姿勢等、声をかけながら虐待防止に努めている。	虐待防止について職員間で共通理解を持ち日常の中で不適切なケアがないよう注意されています。また、3か月に1度高齢者虐待防止委員会を浦富・東浜合同で開かれています。職員間で言葉遣い・対応の姿勢等声をかけながら虐待防止に努めておられ、虐待の芽チェックリストも活用されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人や保佐人の申し立てなどの機会があり学ぶことが出来る。要望により立ち合いや状況説明、必要な際は関係者と話し合い検討するよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約の際、疑問や不明点が無いか尋ね、十分に説明している、後に電話や来所時などに声をかけ納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際、職員が声をかけ利用者様の状況や状態を説明しその中で要望や意見を伺い反映できるように努めている。	利用者とは日々の会話の中から意見や要望をきかれており、家族とは面会や電話の際、利用者の状況や状態を説明し、要望や意見を伺われています。プランの見直し、運営推進会議でも意見・要望は聞かれ、反映できるように努めておられます。毎月利用者の様子が分かるようお便りも送付され、家族との信頼感が構築できる努めておられます。SNSの活用、LINEアプリでの写真の送付も行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談(オンライン含む)を通して職員の発言に耳を傾け、円滑でやりがいのある職場作りを目指している	毎月のユニット会議、職員会議で意見や提案も聞かれています。気にかかることがあれば管理者が声をかけられたり、LINEグループでの質問もされています。また、ホームで管理者が職員の面談をされ、代表者にはホームからの意見を伝えられています。更にオンラインで本社と職員の面談も行われており、職員の意見に耳を傾け、やりがいのある職場作りを目指しておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長時間労働の職員に対しては、賞与に大きく反映させる事で、日々の負担感が昇華出来る様な環境を整え実践している	長時間労働の職員に対しては、賞与に大きく反映させる事で、やりがいに繋がり、日々の負担感が消化できるよう環境を整え実践されています。また、人員確保のために海外からの職員の採用にも取り組まれています。	生産性の向上に向け、職員の業務負担軽減に取り組むために生産性向上委員会の設置に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士資格取得に向けて、最低限必要な初任者研修や実務者研修については、会社費用負担を実施する事で、個人に負担が無い様に配慮しながら、社外での研修参加を奨励している	介護福祉士資格取得に向けて、最低限必要な初任者研修や実務者研修については、シフトの調整も行ない、費用負担を会社が行い、個人に負担が無い様に配慮しながら、社外での研修参加を奨励されています。eラーニングの活用も行なわれています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	残念ながら神戸に事務所がある為、運営施設の近隣の同業者と密なやりとりは出来ていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉を傾聴し、表情や行動、困っていることはないか等、観察し他職員にも共有することで、不安にならないケアを行うよう心掛けている。本人と会話し、出来ることを一緒にやり関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や困っている事等、傾聴し不安が少なくなるよう出来ることを伝えている。面会時や電話の際、利用者様の近況や状況等を伝え、質問などあれば答えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、何が必要なのか会話の中から探り必要としている支援を見極め対応出来るよう努めている。他職員と情報を共有しながら必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態、状況、意思確認し身体的、精神面を考え出来ること、出来ないことを見極めレクリエーションを通じて他利用者、職員と関係を築いている。高圧的にならずゆっくりとした口調で穏やかに接し出来ることはしていただくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「松風だより」「1か月の様子」等を郵送し松風でのくいらしを伝えている。来所持や」電話の際、希望や必要な物、近況等を知らしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、友人の面会も受け入れている。買い物支援をしている。馴染みの場所にドライブで出かけるよう支援している。	行事で外出等出来る範囲で馴染みの場所に出かけるよう配慮されています。また、行きつけの美容室や買い物支援が行われています。	出掛けることが難しい方もあり、写真や手紙、電話での関係性の継続を行われてもよいと思います。その際に昔話をして頂き回想法に繋げ、思いが汲み取れる機会があると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の同士相性を把握し席に配慮している。会話の際、話が通じていない等、職員が間に入り会話の内容を伝え支援している。利用者同士の関りを大切に職員を交え穏やかに過ごしていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、必要な書類や相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話をする中で希望や意向を把握するように努めている。利用者様のやりたいことを利用者本位で考え出来るだけ添えるように検討している。	日々の会話の中から希望や意向を把握するように努めておられます。利用者のやりたいことを利用者本位で考え出来るだけ添えるように検討されています。	思いや意向を基に生きがいに繋がる目標に繋げていかれると良いと思います。また、生活の中で役割を持ち張りのある生活を送れると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などアセスメントでの情報を職員で共有し把握している。一人ひとりと話をする中で得た情報等も書き足し生活歴や環境把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり日頃から様子観察し、カンファレンスや申し送り等を通じて、変わった事や言動などがあれば共有しお互い把握するようにしている。それぞれの過ごし方、心身の状態に合わせできる事はしていただきやりがいを持っていただけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの情報を共有しニーズや今必要なことを把握し日頃の言動や行動から職員が検討し関係者に伝え作成している。本人や家族の意見を踏まえ業務中に課題があればその都度、話し合い反映できるよう努めている。	カンファレンスの前には担当と計画作成者で素案作りが行われ、担当を中心としたカンファレンスを行い、他の職員からの意見を取り入れ原案作り、本人・家族の意向を確認され本案作りが行われています。基本的には評価見直しは6ヶ月ごとに行われ地ます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し変化やアイデアを職員と共有し対応を工夫している。会議などで情報を共有し必要なことや計画の見直しなどに活かしている	ケア記録はタブレット入力されており、日々の様子を記録し、状態変化や気づき等あれば検討、連絡ノートを活用し職員間での共有を行い計画の見直し等、実践に活かされています。計画の見直しの際には留意点も伝えられ、担当と計画作成者は素案作成の際に記録の振り返りも行ない、他の職員に情報がスムーズに伝わるよう気を付けておられます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により変化する利用者のニーズに対応し会議や申し送りなどの際、検討し柔軟なサービスに努めている。その都度に利用者の状況は変化するので、その時々で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンや地域イベント・会議や行事を通じて楽しまるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託委医の往診を受け疑問や家族からの希望を報告している。状態によって専門医に紹介を受け適切な医療を受けられるよう支援している。また、病院への付き添い支援を行い適切な医療を受けられるようにしている。	嘱託委医の往診を受け疑問や家族からの希望を報告されています。状態によって専門医に紹介を受け適切な医療を受けられるよう支援されています。また、病院への付き添い支援を行い適切な医療を受けられるよう図られています。家族が同行して受診される場合に情報提供書を渡されています。歯科の訪問診療もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常に変化や状態などを看護師と情報を共有し必要であれば医師に伝え、受診に繋げている。専門知識の交流を行い、利用者に必要な情報交換や共有する機会をもうけ生活の中での疑問点など相談し業務に生かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、病院連携室や家族と連絡を取り合い状態や受け入れ可能かなど情報交換や相談を行い関係づくりに努めている。	入院の際には、病院の地域連携室の情報提供を行い、連携し、治療状況や経過状況を連絡を取り合い、早期退院を目指し、退院の際には退院カンファレンスもあり、退院後の生活の注意点等のアドバイスも受けられています。病院との関係性構築に努めておられます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	観察上、本人が以前の状態において変化が見られる場合、視覚的、聴覚的情報や看護の視点から多職種と情報交換や管理者に報告しチームで支援に取り組んでいる。	基本的に看取り対応は行われていません。契約時には重度化の対応に関する指針の説明をされ、重度化した場合には「医療連携ケア同意書」に署名、捺印をもらわれています。本人の状態に変化が見られ、視覚的、聴覚的情報や看護の視点から多職種と情報交換や管理者に報告しチームで支援に取り組んでおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、蘇生法の勉強会への参加をし職員は応急救置や初期対応の訓練を行い実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、日常でも避難の際はどのように行動するかなど検討している。夜間想定訓練も行い避難方法など実践している。夜間一人での対応となった場合の話し合いを行っている。地域消防団と協力している。	年2回避難訓練を行い(内1回は総合訓練、消防署立ち会い)、避難の際はどのように行動するか、夜間想定訓練も行い夜間一人での対応の話し合いが御子案内されています。地域消防団との協力が行われている。福祉避難所になっており、BCPも策定されています。	災害時に備蓄品の確保のための協定を近くのコンビニと結べるか確認されることも良いと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持ちながらひとり一人の人格を尊重し尊厳やプライバシーを損なわない様対応している。利用者様の言葉を傾聴し穏やかな言葉かけを心がけている。	排泄、入浴マニュアルに従い、プライバシーに気を付けられています。人生の先輩として尊敬の気持ちを持ちながら一人ひとりの人格を尊重し尊厳やプライバシーを損なわないように利用者の言葉を傾聴し穏やかな言葉掛けを心掛けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に尋ねるような言葉で話しかけ自己決定できるように働きかけている。やりたい事、見たいテレビ等、日々の暮らしの中で自己決定できるよう働くかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく利用者様本位に考え一人ひとりのペースに合わせ、その日の状態を確認し利用者と意思確認してから接している。本人に尋ねながら出来るだけ希望に沿うように支援してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを取り入れオシャレや身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を記入や献立を読み件建てについて話を楽しんでいる。行事や誕生日では好きなメニューを選んでいる。食事介助に際、声かけを行っている。調理レク等、行い作ることを楽しんでいる。	基本的には3食ホームで作られており、週3回は湯煎タイプのメニューを使われています。献立の記入や献立を読み献立についての話を楽しまれています。行事や誕生日では好きなメニューを選んでいます。食事介助に際は、声掛けを行い、少しでも楽しい雰囲気食事がして頂けるよう心掛けておられます。また、調理レク等毎月行い利用者みなさんの生き生きとした姿も見られ楽しい時間を過ごされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嚥下機能に合わせた食事形態で提供している。また、栄養補助が必要な利用者には医師の指示のもと提供している。食事・水分摂取量を毎日記録し申し送り引き継いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診時、指導を受け口腔ケアを行っている。毎食後の声かけにてご自身で口腔ケアを行い、能力に応じて仕上げ磨きなど支援してる。	歯科往診時、指導を受け口腔ケアが行われています。ケアマネが歯科衛生士の資格保有者なので口腔内のトラブルにも対処されています。毎食後声掛けをされ、自分で口腔ケアを行い、能力に応じて仕上げ磨きなどの支援をされています。義歯は夜間預かり洗浄液に漬けて清潔保持されています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し時間を見てパット交換やトイレの声かけを行っている。申し送りやカンファレンスで一人ひとりの出来ること、出来に事を把握して排泄支している。	一人ひとりの排泄パターン表に記入され把握されています。時間を見てパット交換やトイレの声掛けを行っておられます。申し送りやカンファレンスで一人ひとりの出来ることを把握され、排泄支援が行われています。最後までトイレでの排泄ができるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を確認し状態把握を行い水分・運動・等自立排泄に取り組んでいる。看護師状態を相談し情報をもとに必要に応じて敵弁・浣腸・腹部マッサージの施術や頓服の相談をうけ、ここに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣に合入浴支援している。入浴拒否の方にタイミングや入浴方法など見直し希望に沿った支援をしている。	入浴は基本的には週2回利用者の希望や状態に応じて入浴を楽しんでいただけるよう対応されています。入浴拒否の方もありますが、無理強いせず、時間を掛けたり職員を変えるなどの工夫をされ対応されています。リフト浴もあり、希望があれば同性介助も対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状況に応じて休息出来るように支援している。趣味。趣向を大切に環境整備や習慣により安心した気持ちで休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の副作用など服用方法を確認し状態に変化があれば職員間で共有している。医師からの臨時指示で内服薬の変更などあった際、行き違いの無いよう努めている。薬剤師に薬の効能や副作用など問い合わせしている。	服用している薬の副作用など服用方法を看護師が確認され、状態に変化があれば職員間で共有されています。お薬手帳の内容も確認されています。医師からの臨時指示で内服薬の変更などあった際、行き違いの無いよう注意され、何かあれば医師へ連絡され指示を仰がれています。薬剤師に薬の効能や副作用など問い合わせられています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を尊重し洗濯物干し散歩、読書、塗り絵等、希望に添えるように支援している。利用者様の出来ること出来ないことを考慮し興味や得意なことなどを大切に楽しみにつながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により散歩や外気浴の声かけを行っている。屋外での行事で花見や紅葉狩り・ドライブ、買い物等支援に努めている。	天候により散歩や外気浴の声掛けが行われています。新年には初詣にも出かけられ、屋外での行事で花見や紅葉狩り・ドライブ、買い物等支援も行われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族の意向に従っている。買い物等支援しているが立て替えが基本となっている。支払いの際、本人が支払い出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があった際、会話ができるように支援している。手紙は本人に渡し読めないようなら許可を得て職員が読んで伝えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度調整を行い、ディスプレイを毎月変え季節を感じていただけるように工夫している。居室の壁に家族からの手紙やご自分の写真・作成した物を貼ったり居心地よい環境を工夫している。	共有空間の温度調整を行い、ディスプレイを毎月変え季節を感じていただけるように工夫されています。みなさんで作られた作品も飾られており、ソファも置かれ、くつろげるスペースもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのお好きなように過ごされ新聞やテレビを見るなどしている。また、利用者様同士会話され職員を交え会話を楽めるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の制作した作品など飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。本人と話をしながら居室内のタンスやベッドの配置を工夫をしている。家族に相談しご自身が使い慣れたものなど持ってきていただくなどしている。	自身で制作した作品や家族からの手紙や写真を飾られ飾り居心地良く過ごせるよう工夫されています。本人と話をしながら居室内のタンスやベッドの配置も動線に配慮したレイアウトになっています。家族に相談し使い慣れたものや好みの物を持ってきてもらわれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ることを把握し「出来ること」「わかること」を見守り出来ないことはどうすればいいのか職員間で検討し日々工夫をしている。		